

アトピー性皮膚炎患児に対するトルマリン ソープの使用経験と保湿能力の検討

総合母子保健センター愛育病院 皮膚科

内 田 美 香

中 原 優 子

部長 山 本 一 哉

小児科臨床別刷

54 : 2001 - 2

研究

症例

アトピー性皮膚炎患児に対する トルマリンソープの 使用経験と保湿能力の検討

要 旨

低刺激性および保湿作用を特徴とするトルマリンソープを5歳以下のアトピー性皮膚炎患児に使用して安全性と有用性を確認した。同時に角層水分量を計測して、本石鹸で洗うことにより、洗浄15分後までは保湿機能が一般の石鹸に優る傾向があることが認められた。

以上の結果より見て、本石鹸はアトピー性皮膚炎患児のスキンケアに使用可能であると考えられた。

(小児科臨床 54:281, 2001)

■ はじめに

株式会社スタックスより提供を受けた薬用無添加石鹸トルマリンソープは、香料・パラベンなどの指定成分、刺激性を示しうるラウリン酸を含まず、トルマリン鉱石により処理された天然アルカリイオン水を使用して製造された透明石鹸である。なお、主剤グリチルリチン酸ジカリウム（カンゾウ）、天然保湿成分（シソエキス、モモ葉エキス）を含むことで保湿機能にも配慮されている。今回我々は、乾燥性皮膚を持つ小児、すなわち小児のアトピー性皮膚炎患者を対象に本石鹸を使用して有用性・安全性を検討し良好な結果を得たので報告する。

さらに本石鹸の使用部位の保湿能力を、他の石鹸と比較することを試みたので、その結果も併せて報告する。

■ 試験方法

1. 対象

2000年9月から10月にかけて、愛育病院皮膚科外来を受診した患者のうち、5歳未満の小児のアトピー性皮膚炎患者19例を対象とした。なお試験開始前には、担当医師より保護者に試験内容・目的などの主旨を説明し、口頭の同意を得た上で試験を行った。

2. 試験試料

使用したトルマリンソープは、当初に述べたように無香料、無添加、無着色のわくねり石鹼（いわゆる透明石鹼）である。

3. 使用方法

原則として1日1回入浴時に使用するものとし、4週間使用させた。なお、使用にあたっては、手またはガーゼタオルの使用を推奨し、髪の毛を除く全身（顔面を含む）に一般的な泡立て方で使用させた。

なお、アトピー性皮膚炎の治療は本試験開始時の治療をそのまま継続し、試験期間中の薬剤の変更は行わないものとした。

4. アンケート

試験試料について保護者（主に母親）に対しアンケート調査を行った。

■ 試験結果

1. 患者背景

2000年9月～10月にかけて愛育病院皮膚科外来を受診した対象患者の年齢は0歳7ヵ月～5歳、性別は男児11例、女児8例であった。

皮疹の程度は中等度4例、軽度15例であった。なお、合併症は2例に乳児寄生菌性紅斑が認められた。

2. 皮膚所見

試験開始時に観察された皮膚所見は、大部分の例で1段階以上改善されていた。

3. 全般改善度

改善度を評価した結果は、著名改善8例を含む16例（84.2%）に改善が認められた。他はやや改善が2例（10.5%）、不変が1例（5.3%）で、悪化例は認められなかった。

4. 副反応

副反応は全例に認められなかった。

5. 試験中止

認められなかった。

6. 安全性

全例、安全と認められた。

7. 有用性

安全性に最終全般改善度を勧案して評価した。その結果、19例中有用と評価されたものは18例（やや有用1例を含む）で、94.7%であった。他の1例は、どちらともいえない、という例であり、有用でない、という例は認められなかった。本試験を季節的に乾燥に向かう時期に行ったことを考えると、試験試料の有用性は高いと考えられる。

8. アンケート

19例全例からアンケートを回収しえた。

その結果はかなり満足すべき回答が得られた。ことに他社製品との比較で、よかった以上が19例中18例(94.7%)、使用継続希望が17例(89.5%)に上ったことは強調されて良いであろう。

■ 角層水分量の変化

健常成人5名(男子3名、女子2名)の両前腕を試験試料、市販固形石鹼で左右別々に洗浄させた。洗浄直後から5分間経過ごとに、コルネオメーターを使用して、左右の前腕屈側皮膚の角層水分量を計測した。

15分後までは試験試料(トルマリンソープ)使用部位の角層水分量測定値が、市販固形石鹼使用部位より高い値を示す傾向が認められたのである。15分以降ではその差はなくなる。このことは、皮膚を洗った後は、15分以内に保湿という重要なスキンケアを行うことが望ましいことを示した結果といえよう。

■ 考えとまとめ

小児の皮膚のバリア機能が、成人に比較して生理的に健常さの維持が困難な条件にあることは良く知られている。さらにアトピー性皮膚炎患者では、発症の素因としてバリア機能に異常があることが明らかになってきた¹⁾²⁾。

他方、アトピー性皮膚炎の治療にはステロイド外用剤を始め、やがてはタクロリムス外用の可能性も含めて多様な外用療法がそれぞれに有効性を認められて臨床的に使用されている。しかしながら、それらと同時にスキンケアとしてバリア機能の改善、維持を図ることもまた、アトピー性皮膚炎の治療には必須のこととされている。因に、スキンケアの基本は「角層表面の汚れを取り去り、その後保湿を行う」という点にある。薬剤の外用に際しても、汚れた病変部位に塗布することが望ましくないことはいうまでもない。

したがって、皮膚病変の治療が何よりもまず患者の皮膚の汚れを取り去ることから始まるとすれば、石鹼などの洗浄料の選び方、そして洗い方などが問題になるわけである。そのような場合に、どのように使用されても洗浄後、スキンケアが行われるまでの間、保湿能力に優れた洗浄料(例えば石鹼など)が選ばれば理に叶うことになろう³⁾。

今回、我々は試験試料として提供されたトルマリンソープを、安全性、有用性、使用者の感覚、さらには角層水分量の保持能力などの各種の条件から検討した。その結果、本石鹼は健常な小児はもとより、アトピー性皮膚炎患児のスキンケア用品としても適した製品であると考えられた。

文 献

- 1) Kazuya Yamamoto: Soaps and Detergents in Children, Clinics in Dermatology 14: 81~84, 1996
- 2) 安念美雪、山本一哉: ピオセラミド LS 含有ローションの使用経験-小児のアトピー性皮膚炎に対する有用性-。日小皮会誌 17: 45~50, 1998
- 3) 中島美知子、佐々木りか子、安念美雪 他: いわゆるベビー用スキンケア製品のアトピー性皮膚炎、小児乾燥型湿疹の小児に対する使用経験 ibid 17: 169~178, 1998